

# 27Q-pm091

## 注射剤容器の使用に関する評価

○定本 清美<sup>1</sup>, 高橋 瑞穂<sup>1</sup>, 神川 美江<sup>1</sup>, 佐伯 剛<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東邦大薬)

【目的】注射剤や輸液剤を使用するにあっては、薬剤の取扱いから実際に投与される時までには幾つかの過程があるが、それぞれについて機能性・安全性が保たれている事が必須である。また、注射剤やその容器を扱う者は薬剤師・看護師、医師、検査技師など多くの職種であり、さまざまに使用されている。しかし、今までに注射剤・輸液剤やその包装・容器の使用しやすさや安全性について検討した報告が少なく、実態は不明な部分が多い。そこで、今回実際に注射剤・輸液剤の使用に携わる看護師を対象に、機能性・安全性等幾つかの調査を実施し、検討した。

【方法】今回、調査に協力してくれた東邦大学医療センター佐倉病院の看護師（65名）に、「表示について」「包装について」「使用の利便性について」「保存について」「品質について」「価格について」の6項目を4段階（悪い、やや悪い、やや良い、良い）評価でガラス容器、プラスチック容器、中心静脈栄養製剤、輸血パック、採血時保存スピッツなど各種素材の容器について評価を行った。

【結果・考察】表示、包装、品質については、注射剤の回答数（ガラス、プラスチック）が多いが表示、品質に問題点の指摘が多かった。特に小さい容器の表示については、見づらいとの指摘が多く、過誤の経験も報告されていた。調査項目全体に一般輸液製剤、抗生物質パック製剤、油性輸液製剤、採血時保存スピッツの評価が高かった。それぞれの容器の取扱いの評価はなされていたが、価格に関しては「知らない」という回答が多かった。